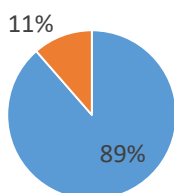


板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《CS委員回答用》 まとめ

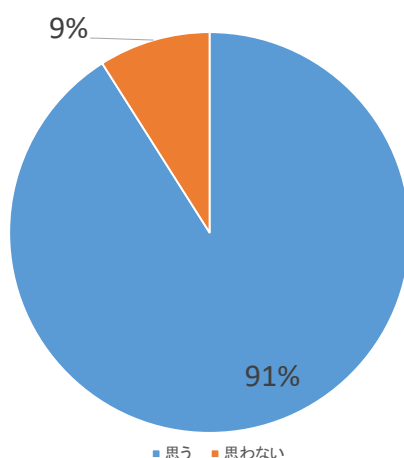
令和6年度

Q1 会議の開催時間や開催時期・開催数は適切であったと思いますか。

令和5年度



令和6年度

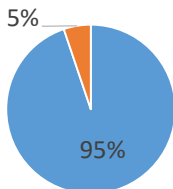


約91%の委員が会議の開催時期・開催数は適切であったと回答した。

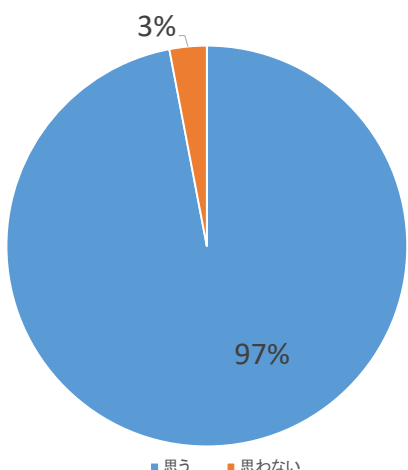
思わないとする回答の中には、平日の参加は仕事の関係上難しい、CS委員会が本来の役割を果たすためには、熟議の時間が足りないとする意見がみられた。

Q2 熟議のテーマ設定は適切であったと思いますか。

令和5年度



令和6年度



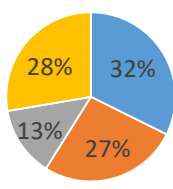
熟議のテーマが適切であったと思う委員は、約97%であった。

思わないとする回答の理由として、「1年間を通してテーマを決め、振り返りをした方が良い」「校長先生の話だけで終わってしまう回がある」との意見がみられた。

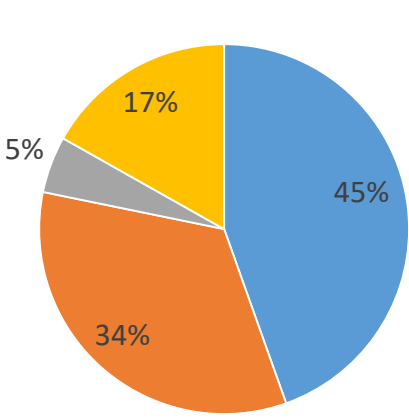
3

Q3 CS委員会の開催方法として、書面開催及びWEB開催は必要だと思いますか。

令和5年度



令和6年度



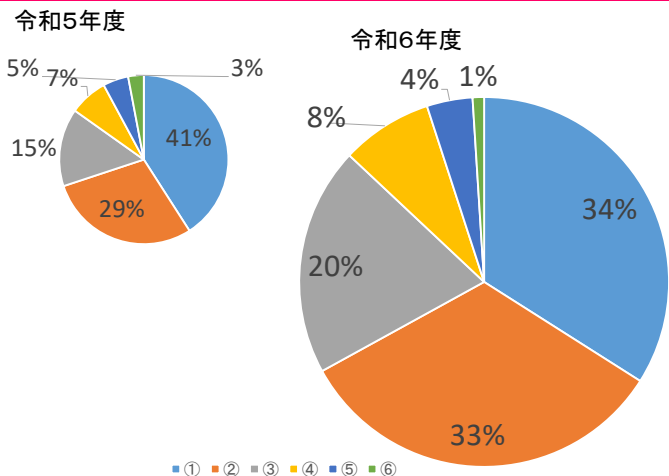
書面開催及びWEB開催が必要だと思う委員は、約84%であった。

書面開催やWEB会議を取り入れた方が出席率が上がるのではないかと意見がみられた。

■ 両方必要 ■ 書面開催は必要 ■ WEB開催は必要 ■ どちらも必要ではない

4

Q4 地域とともにある学校を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。



- ①地域との連携・協働が不可欠とする学校・教職員の意識
②学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
③地域の特色を生かした教育活動の展開

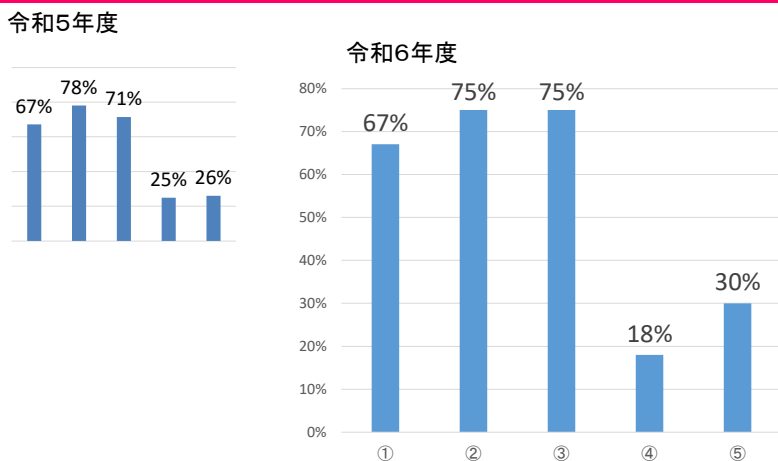
- ④地域人材の学校経営への参画
⑤地域への学校施設開放
⑥その他

①及び②について、最も必要だとする回答が多かった。

意識の醸成や目標を共有できる熟議の在り方については当面の課題と考えられるが、③について、昨年度よりも約5%割合が高くなった。

5

Q5 学校の仕組みのうち、理解しているものを全て選択してください。



- ①教職員の勤務時間
②教職員の職層の仕組み(校長・副校長・主幹教諭など)
③学校で働いている教職員の種別(教員、事務職員など)

- ④教育課程の編成の仕組み
⑤教職員の異動の仕組み(異動対象者、任命権者など)

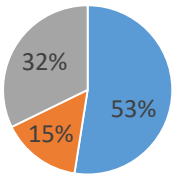
①～③については、多くの委員が理解していた。一方で④・⑤については、理解している委員は少数であった。

CS委員として、学校の仕組みについてよく理解する必要がある。

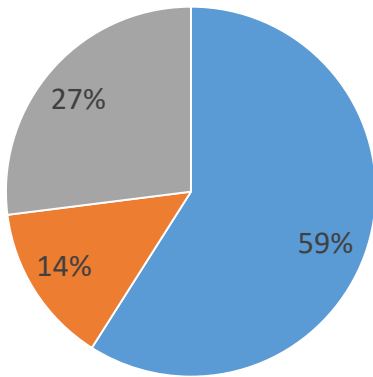
6

Q6 学校支援地域本部がどのような活動を行っているのか分かりますか。

令和5年度



令和6年度



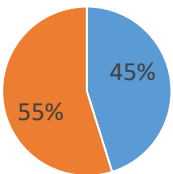
■ 分かる ■ 分からない ■ どの活動が該当するのか分からない

iCSの両輪である学校支援地域本部について、約59%の委員が分かると回答し、昨年度より約6%増加しているが、委員の中には地域コーディネーターを含むため、実際の認知度はもう少し低いと推測される。

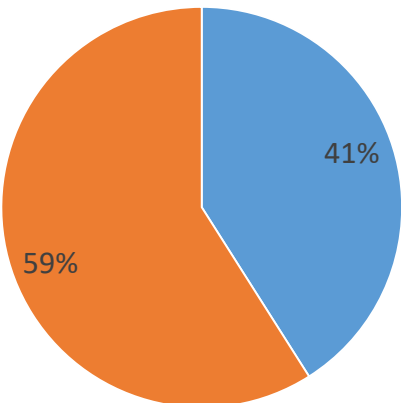
7

Q7 1年間CS委員として活動してみて、CS委員会について課題と感じていることはありますか。

令和5年度



令和6年度



■ ある ■ ない

約41%の委員がCS委員会に課題があると回答した。

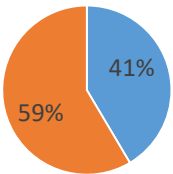
【主な意見】

- 熟議の時間が短すぎて十分な熟議ができていない
- もっと多様な世代・属性の委員を入れるべき
- 学校の活動が全て事後報告なので、意向や目的について話し合えると良い など

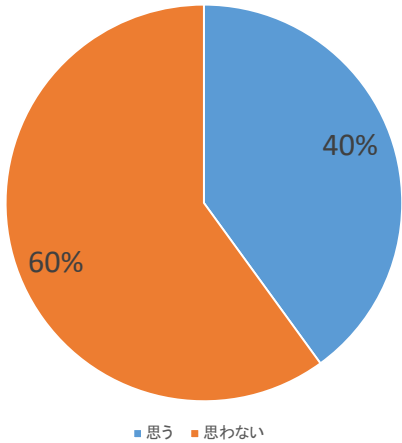
8

Q8 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度

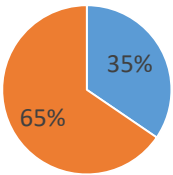


約40%の委員が、任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。

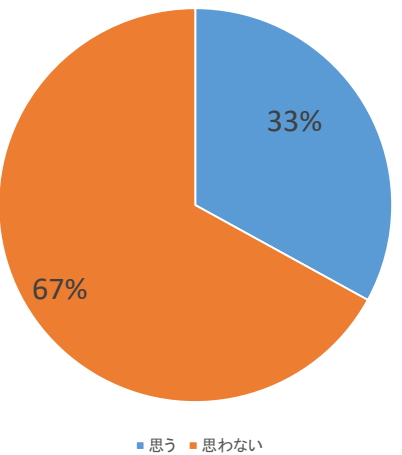
2年～5年程度の回答が多く寄せられた。

Q9 委員長の任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和5年度



令和6年度



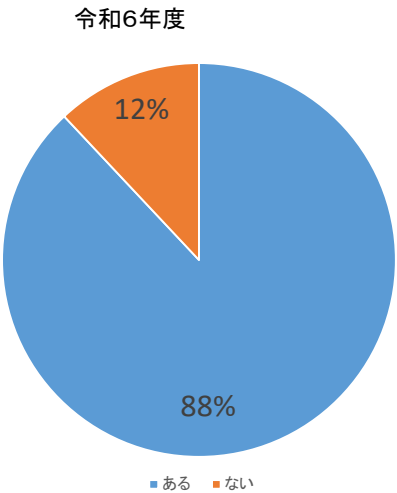
約33%の委員が、委員長の任期について定めた方がいいと回答した。

委員の任期と同じく、2年～5年程度との回答が多く寄せられた。

Q10 iCSに関する情報発信のため、「iCSレター」を年数回発行していますが、読んだことはありますか。

令和5年度

設問なし



約88%の委員が、読んだことがあると回答した。

CS委員会での机上配付やスマまちでの配信で読んでいる委員が多数だった。

内容については、iCSの仕組み・取組について、各CS委員会の好事例について参考になったという意見が多く寄せられた。

Q11 CS委員会や学校支援地域本部に関して、学校や教育委員会に対する要望・意見等がある場合にはご記入ください。

主な意見の内容とそれに対する回答

意 見	回 答
その場限りの熟議になってしまい、実際に実行に移すなど、次のステップに進めていない。	熟議のファシリテーター研修を毎年開催している。参加者からは普段の熟議がまとまるようになった、その場限りの話し合いで終わらず、実行に移すヒントを得ることができたなどの声があがった。委員の皆さまには、積極的な研修の参加をお願いしたい。
CS委員会の存在や位置付けが不明瞭なので適切な広報を定期的にお願したい。	iCSの仕組み・取組について保護者や地域住民等iCS関係者以外にも積極的に周知を行う。教職員との熟議の実施や、保護者にオブザーバーとして参加していただくこともCS委員会について知ってもらうきっかけになると考える。
CS委員会や学校支援地域本部の活動を保護者や地域の方に知ってもらえると、学校や委員も活動がしやすくなる。	